

# 平成28年度伊丹市立松崎中学校 自己評価・学校関係者評価

## 1 校訓

盡 己

## 2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

## 3 本年度の経営方針

校訓「盡己」の具現化をめざして、授業、行事、部活動を教育活動の3本柱とし、「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒を育成する

## 4 自己評価結果

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方針
	生徒	保護者	教職員						
「一生懸命勉強する」生徒の育成	④～⑥	②～④	④～⑥	①学力が身につく授業実践	教員の授業力向上	・単元及び本時の目標達成のための自分ならではの「手立て、工夫」を取り入れた授業、ペア・グループ学習を取り入れた授業を実践した。	2	2	【課題】 「授業が楽しくわかりやすい」と回答した生徒が73%(7月76%、昨年度72%)、学年別生徒では1年生が81%(7月84%)、2年生が79%(7月80%、昨年度83%)、3年生が62%(7月67%、昨年度59%)で、今年度7月の評価をどの学年も下回っている。昨年度と比較しても低い授業評価である。授業力の向上どころか、教師の向上心の欠如、怠慢としか言えない。さらに、「学力向上のために授業の工夫をしている」と回答した保護者が75%(昨年度80%)で、保護者の評価にもそれが表れている。教師の自己満足にしかならない講義型授業が依然改善されない状況がある。 【改善方針】 1学期に比べ、評価が下がっている原因は、同じ授業の繰り返しになっているためである。生徒指導の三機能に視点を置いたアクティブ・ラーニング(生徒の主体的な学び、対話的な学び、深い学び)、パフォーマンス評価(授業で本当に力がついたかの確実な評価)をとおして、授業が機能しているか振り返る。
					計画性を持った研修の実施	・校内授業研究会を学期に1回行い、授業を見る眼(鑑識眼)を身につけるべく事後研究会を通じて、授業力の向上が図れた。 ・校区の幼稚園、小学校教員との合同研修会を実施し、校種間の指導の継続性を図った。 ・外部講師による接遇、文章作成に関する研修会を実施した。			
					生徒指導が機能する授業実践	・「ペア・グループ学習」を取り入れ、その中で生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)に視点を置いた教師独自の「手立て(工夫)」を明記した指導案を作成し、全ての教師が公開授業を行った。			
	⑦	⑤		②読書活動	図書室の整備	・昨年度の改善方針であった開館を隔週から毎週にした。 ・カウンターにパソコンを1台設置することによって、スムーズに貸出業務ができるようになった。 ・安全面から、棚の高い位置にあった本を低い棚に移動した。	3	3	【課題】 「朝読書や図書室の利用など読書に力を入れている」と回答した生徒は81%(昨年度78%)で、開館を隔週から毎週にした成果と言えるが、5人に1人が取り組んでいない状況である。まだまだ十分とは言えない。 【改善方針】 ・図書室が調べ学習の拠点になるよう、整備、利用方法について検討する。 ・読書をとおして実感できる満足感、充実感を味わうことができる図書選択の方法を教える。
				読書量の向上	・「初夏の本まつり(7月)」で、推薦図書の冊子を作成、配布した。「図書館フェスティバル(11月)」では、しおりコンクールを実施した。いずれも1日の利用者が100人を超える日があった。 ・図書貸出冊数…7,369冊(4～12月)、11冊/1人(前年6,314冊、10冊/1人) ・読書冊数 …16,661冊(4～12月)、26冊/1人(前年14,168冊、21冊/1人)				
⑬⑭	⑩⑪	⑩	③進路指導	進路指導体制の充実	・新通学区域による公立高校入学者選抜が3年目を迎え、過去2年間の進学状況をまとめ、客観的なデータをもとに生徒の進路指導を行った。	3	3	【課題】 ・公立高校入学者選抜における新通学区域が定着し、旧伊丹学区外の高校を希望する生徒が増加しており、進路実績が少ない高校についても正確な情報発信をしなければならない。 ・学習タイムが単発になっており、授業の振り返り、家庭学習への接続になっていない。 【改善方針】 ・3学年をまとめた進路指導年間計画を作成し、1年時からの系統的な進路指導の可視化を図る。	
				生徒・保護者への情報提供	・「進路に関する情報提供や指導をしてくれる」と回答した生徒が87%(昨年度83%)、保護者が81%(昨年度75%)と増加しており、進路通信(30回)、学校だより等で、より正確な新しい進路情報を発信することができた。				
	④		④学習タイム	系統的・継続した実施	・授業の学習内容に即した確認テストを実施し、基礎的・基本的事項の定着を図った。	3			
学校関係者の意見等	<b>&lt;よい点&gt;</b> ・服装や授業態度からも全体が落ち着いて生活している状態がよい。 ・学習についても前向きに取り組んでいる様子がうかがえ、安心感が持てる。 ・経営方針が具体的に示されており、活動が実行しやすい点が良い。 3本柱・授業・行事・部活動 ・目標がわかりやすく、よい。 ・進路に関して、オープンスクール案内、ポスターなどを掲示しており、生徒への丁寧な情報提供ができています。 ・全教師の授業公開は、人間関係も築け、授業力アップにもつながると思うので、継続してほしい。 ・ペア・グループ学習は次期学習指導要領が示す学び方の一つであり、生徒同士の学び合いはよいことである。			<b>&lt;課題&gt;</b> ・全体として若い先生が増えているように思われる。以前に比べ、県費・市費による加配教員(指導員)が増えている。よいこともあるが、学年や教科としての共通理解、共同実践が難しくなっているのではないかと。その部分をどう克服するのか。 ・PDCAサイクルのアクションプランが不十分ではないか。 ・「授業評価」の改善がなかなかみられない。以前からの課題である。 ・日々の授業がマンネリ化に陥っているのではないかと。そのことが生徒の学習意欲を低下させる原因である。			<b>&lt;改善策&gt;</b> ・授業、学級指導、生徒指導等、教師一人ひとりの責任を明確にし、情報共有しながら、どれだけオープン化が図れるか。(教室と心の窓を開ける) ・問題点の掘り下げ、対策案の検討、実行に向けた計画の作成、見直しが必要である。 ・生徒と保護者から授業がわかりにくいとの評価が出ている。その結果をしっかり受け止めて、変化のある工夫した努力がみられる授業を望む。 ・家庭学習の少なさが指摘されており、小学校からの積み重ねの大切さを感じる。小学校と連携した取組が必要である。 ・個々の教員の授業力upに向けた組織的な取組が必要である。 ・教科書を教えるのではなく、教科書で教える多様な指導法を工夫すべきである。		

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善策
	生徒	保護者	教職員						
「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成				①部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動数19は市内最多であり、活発に活動している。</li> <li>阪神大会出場17、県大会出場4、近畿大会出場2、全国大会出場2と好成績を残した。</li> <li>ノ一部活デー(毎週月曜日と月2回(土・日))を設定して、適度な休養を設け、けがの防止や効率的な体力向上に努めた。</li> <li>生徒下足場掲示板に部ごとの成績を掲示して広報した。</li> </ul>	4		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノ一部活デーの意義が生徒、保護者に十分伝わっていない。</li> <li>部活動が授業や行事と系統的につながっていない面がある。</li> <li>お互いが高め合える集団としての活動を計画的、系統的にできていない。</li> <li>自己存在感を育てる場面設定が十分できていない。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノ一部活デーに、家庭での手伝いや家庭学習に取り組み啓発を家庭と協力して行う。</li> <li>部活動で身につけた体力、忍耐力、自信を、授業、行事につなぐことができるよう、技術指導だけでなく、教師の意図的、系統的な人間形成に向けた指導を行う。</li> </ul>
	③	③⑬	③	②学校行事	生徒の自己存在感、充実感、達成感の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「行事で伸ばす!!(生徒も教師も)」を目標に掲げ、生徒と教師が一体となって、学校行事に取り組み、教師と生徒との信頼関係を構築する礎となった。</li> <li>昨年度の「からだで歌って、歩ける松中生」よりもバージョンアップした「からだで歌って、歩ける松中生、そして感動」をめざして、教師と生徒と一緒に汗を流し、共に感動・充実感・達成感を味わうことができた。</li> <li>「学校行事が楽しい」と回答した生徒が91%(昨年度92%)、「子どもが学校行事に積極的に参加している」と回答した保護者が95%(前年度96%)であり、3年連続で多くの生徒が行事に前向きに取り組んでいる。</li> </ul>	4		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にはよいところがあると思う」と回答した生徒が66%であり、自己存在感が育っていない状況がある。</li> <li>これまでの教師の意図的な取り組み姿勢がマンネリ化している状況がある。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いいところを認めて「褒めて伸ばす」ことに重点を置いた指導を行う。</li> <li>全ての教師が授業研究と一体となって生徒指導が機能する行事運営をする。</li> </ul>
	⑩⑪	⑦⑧	⑦⑧	③生徒指導	生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回の生徒指導委員会を定例化し、情報共有をしながら、共通理解のもと指導・対応を行うことができた。</li> </ul>	3	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期欠席者数22人(H28.12末現在)昨年度同時期23人</li> <li>「学校の決まりについて公平に指導している」と回答した生徒が91%(昨年度79%)、「決まりや社会のルール、マナーについて指導している」と回答した教師が100%(昨年度100%)であり、生徒と教師の意識の差がある。</li> <li>「学校は一貫した生徒指導を行っている」と回答した保護者が80%(昨年度81%)、「問題行動に対する指導体制が整備されている」と回答した教師が86%(昨年度96%)であり、生徒と同様、教師との意識の差がある。</li> <li>生徒間でライン等を使用したトラブルが発生しており、自分たちで解決できない状況がある。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「問題行動には汗をかく」「不登校には足を使う」を徹底して実践する。</li> <li>生徒指導が機能する授業、行事、部活を実践する。</li> </ul>
					いじめ、問題行動への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケート調査を年5回実施し、実態把握を行い、早期発見・早期対応を行った。</li> <li>いじめ防止週間を年2回設定し、教育相談の実施、生徒会による全校的な取組を行った。</li> <li>携帯、スマホによるトラブル防止に向けた講演会を2回実施した。</li> </ul>			
					不登校への計画的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導委員会での情報交換をもとに、一人ひとりの態様に応じて別室指導、面談、家庭訪問等を行った。</li> <li>別室登校、時差登校など、個々の生徒の状況に応じた取組を行った。</li> </ul>			
					家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話連絡、家庭訪問等、家庭との連絡を密にした取組を行った。</li> </ul>			
		⑫	⑨	④教育相談	生徒理解のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回教育相談週間を設定し、生徒の状況把握を行った。</li> <li>いじめ防止週間と教育相談週間を同一週に設定し、全校体制による生徒理解を行った。</li> </ul>	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「先生は生徒の悩みや不安に対して相談ののってくれる」と回答した生徒が78%(昨年度78%)、「学校に子どものことについて相談できる先生がいる」と回答した保護者が66%(昨年度71%)、「悩みや不安をかかえている生徒の相談ののっている」と回答した教師が90%(前年度96%)である。教師の認識にズレがある。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で生徒の状況を把握する(生徒指導が機能する授業実践)。</li> <li>生徒から信頼される授業力と人間性を磨く(授業、行事、部活動)。</li> </ul>
				⑤特別支援教育	指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育推進委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握、支援内容の検討等、適正な教育支援を行った。</li> <li>特別支援教育支援員が普通学級での支援を要する生徒に対して計画的な支援を行い、支援状況を毎日学級担任に活動報告として伝え、学級指導に活用した。</li> </ul>	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普通学級における要支援生徒に関する個別の指導計画の作成が、特別支援教育支援員が関わっている生徒のみになっている。</li> <li>個別の指導計画が支援対象生徒に対する継続した支援に十分活用されていない。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画を学年会、校内研修会で活用し、ファイリングすることにより個別の教育支援計画として整備する。</li> <li>特別支援教育支援員の支援状況を学級担任が把握し、学級での指導や保護者との連携に活かす。</li> </ul>
		⑮⑯	個別の指導計画の作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級の生徒、普通学級における支援を要する生徒について個別の指導計画を作成した。</li> </ul>				
			⑥生徒会活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、生徒会役員が挨拶運動、校歌の放送、国旗・市旗・校旗の掲揚を行った。</li> <li>全校集会の整列指示、退場指示を生徒会役員が行い、自治活動として定着してきた。</li> <li>いじめ防止週間で「グリーンテイングカップ」「ありがとう流星群プロジェクト」「Many Many Flowers プロジェクト」を実施し、生徒が主体となった取組を進めることができた。</li> <li>各委員会で、点検活動やイベントを企画して、全校生徒が生徒会活動に参加できるよう工夫した取組ができた。</li> </ul>	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの生徒が生徒会の一員として、自分たちの手で学校生活を活性化しようという姿勢が十分でない。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員を中心に定着してきた自治活動を各委員会につなげることで、全校的な活動に発展させる。</li> <li>主体的な生徒会活動ができるような場づくりを教師が意図的に設定する。</li> </ul>	
	⑰	⑬	⑦健全な食生活	早寝・早起き・朝ごはんへの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>横断幕を作成し、生徒、保護者、市民への啓発を行った(すこやかネットまつぎ)。</li> <li>教科指導において、偏りなく栄養摂取ができるバランスのよい食事について食育指導を行った。</li> </ul>	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食を毎日食べている生徒が79.3%(昨年度82.8%)、あまり食べていないまたは全く食べていない生徒が7.5%(前年度6.4%)で、改善が見られない。</li> </ul> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PTAと協力して、早寝・早起き・朝ごはんの啓発活動を行う。</li> </ul>	
学校関係者の意見等	<p>&lt;よい点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「しっかりと歩ける(行進ができる)生徒」「しっかりと歌える生徒」等、具体的にはっきり目標を出しているのがよい。</li> <li>部活動で多くの賞をとり、文武両道ですばらしい。</li> <li>全校集会での生徒会による整列指示は自立に向けた取組としてよい。</li> <li>体育大会、文化発表会での生徒と教師の一体感は、観ている者に達成感、感動が伝わってきた。</li> <li>校舎内が清潔で、どの教室も整理整頓され、また廊下の掲示もきれいに見やすく、気持ちが良い。</li> <li>部活動の活性化及び学校行事への取り組み姿勢が大いに評価できる。</li> </ul>			<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマホに関係するトラブル、いじめの問題について、個々に応じた具体的な対策を立てることが課題である。</li> <li>スマホのトラブルは、校外で大人が見えにくいところで起きており、すべて把握することが難しい状況がある。</li> <li>日々の授業などでの生徒の心のケアに関する具体的な取組が見えない。</li> </ul>			<p>&lt;改善策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの問題、スマホのトラブルには、日々の観察などを、地道に根気強く続けていく必要がある。</li> <li>地域から地域行事への参加についてアプローチをすることで、生徒会活動の活性化、さらにはより多くの生徒の参加につながるのではないかと。</li> <li>行事、部活動では一定の仲間づくりができており、授業で、つながり合い、学び合うことで、仲間づくりを意図的に行う必要がある。</li> </ul>		

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
	生徒	保護者	教職員						
開かれた・信頼される学校づくり	①	①	①②	①学校運営協議会	学校経営への意見反映	・学校運営協議会を定期的に開催し、学校や生徒の参観をとおして、様々な意見を受けた。 ・次年度の学校経営方針について協議し、承認を得た。	3	3	【課題】 ・学校運営協議会について、教職員、保護者の理解度が低い。 【改善方策】 ・新転任者に対する学校運営協議会(コミュニティ・スクール)に関する研修を実施する。
				②学校評価	PDCAサイクルの実行	・学校評価資料としてのアンケートを7月と11月に実施した。各項目とも肯定的な回答が多かった。特に、行事や部活動に関して生徒・保護者に評価されてきている。	3		【課題】 ・PDCまでは機能しているが、効果的なA(アクション)ができていない。 【改善方策】 ・次年度の学校経営方針をはじめ、各分掌の方針・計画を今年度中に協議・決定する。
		⑫⑬⑭	⑮～⑲	③保護者・地域との連携	地域への公開、参観授業の実施 生徒、教師の地域行事への参加 学校からの情報発信	・学期1回の土曜オープンスクールが定着してきた。 ・部活動生徒を中心に地域行事への参加を積極的に行った。 ・学年通信、学校だよりを定期的に発行し、学校情報の発信を行った。 ・校区内3小学校区会長会、理事会に管理職が毎月出席し、学校教育活動に関する情報提供を行うとともに、地域の意見聴取、地域との情報共有等ができた。	3		【課題】 ・地域行事へ参加していると回答した生徒が28%(昨年度25%)で、低い状況である。 【改善方策】 ・オープンスクール等の情報発信とあわせて、地域行事で生徒が活動できる場づくりを意図的に設定する。
学校関係者の意見等	<よい点> ・市内でモデル的に学校運営協議会を設置したことはよい。 ・学校だよりは丁寧でわかりやすい。 ・生徒が地域行事に参加し、積極的に動いてくれて、地域の方と話している姿はほほえましい。継続してほしい。			<課題> ・学校運営協議会の活動、取組は暗黒模索の状態である。いろいろな機会をとらえ(特に地域との行事)、まずPRすることが大切だと思う。 ・PDCAのアクションプランの検討が不十分ではないか。 ・学校運営協議会として、どのように学校経営に参画していくのか、まだ定まっていない状態である。 ・コミュニティ・スクールに関して、保護者、地域の理解が十分でない。			<改善策> ・学校運営協議会の目的を明確にする。 ・学校運営協議会の構成メンバーについて、どのような人に入ってもらうべきかを検討する。 ・管理職は学校運営や人事に責任を持ち、学校運営協議会は学校が進もうとする方向への応援団としてありたい。 ・朝食抜きの生徒がいることから、三者が一体となり、それぞれが責任を持って役割を果たさなければならない。 ・学校運営協議会委員と教職員との合同研修会を企画してもよいと考える。 ・生徒、教師の地域行事の参加については、お互いのニーズや活動内容を知ること、より参加しやすくなると思う。		

※ 項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する  
(4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

#### 4 自己評価における特記事項

・生徒アンケート結果の経年比較(H26→H27→H28)は肯定的評価が続いている。  
「学校へ行くのが楽しい」88%→86%→87%、「学校行事は楽しい」92%→92%→91%、「授業はわかりやすく楽しい」68%→72%→73%、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」74%→78%→78%  
・第3学年における生徒アンケート結果は昨年度は前年度に比べて肯定的評価が低下したが、今年度は昨年度を少し上回った。  
「学校へ行くのが楽しい」79%→83%、「学校行事は楽しい」88%→88%、「授業はわかりやすく楽しい」59%→62%、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」74%→74%  
・第2学年で、前年度よりも授業評価が低下する原因は、授業のマナー化、言い換えれば、前年度と同じ方法で授業を教師が続けていることにあると考えられる。日々、向上心を持って実践に励むこと、授業改善にむけた教科の専門的研究をすることが必要である。